



製造部東京デジタルセンター  
インクジェット係  
小西 紘奈氏  
[2019年4月入社の新入者ですが、インプレミアIS29は半年で使いこなせるようになりました]



製造部東京デジタルセンター  
センター長補佐  
茂木 陽介氏  
「フィーダーは抜群の安心感。さすがオフセットメーカーであるKOMORIです」

インプレミアIS29は、短納期や小ロットの印刷から加工、断裁、発送までを一貫して行っている。東京デジタルセンターに設置されている。同センターで、センター長補佐を務める茂木氏は、現在の稼働状況を次のように語る。

「面付けによって変わりますが、大きいサイズのものだと200部位まで、ポストカードや名刺などの小さいサイズのものでは5千から1万までは、インプレミアIS29で刷っています」

**多能工化を実現する  
インプレミアIS29**

プリントネット株式会社は、受注の多くが印刷専門分野の顧客からのもので、現在オフセット機が12台、PODが16台稼働しており、今回ここに、B2デジタル機のインプレミアIS29（29インチ枚葉インクジェットデジタルプリンティングシステム）が、新たに加わった。

小田原社長は、「3千部以上がUVの輪転機、千部以上を枚葉オフセット機、100部未満はPODと考えています。当社初のB2デジタル機となるインプレミアIS29は、枚葉オフセット機とPODの中間部数を刷る印刷機として期待しています」と、使い分けの構想を説明する。さらにインプレミアIS29をラインアップに加えた理由を、「オフセット機は刷版を出して、両面8色分の版付けを行うと、準備時間が必要になるし、ヤレ紙も相応に出ます。それに対して、デジタル機は刷版不要で、ヤレ紙も抑えられます。デジタル機をラインに組み込むことで、オフセット機で生産できるキャパシティを広げることができ、インプレミアIS29を選んだのは、オフセット製造技術を生か

長を実感しているという。

「インプレミアIS29は、まず両面印刷ができることが大きい。そして、幅広い種類の用紙に対応しているのも魅力です。さらにUVインクジェット方式であり、厚紙や凹凸のある紙にも印刷でき、プレコートが不要なことも、仕事の幅を広げてくれていると感じています。実際に、0.06ミリコート紙から0.3ミリのケント紙まで刷っていて、その都度、細かく設定を変える必要もありません。プリセットを決めておけば人手をかける必要もなく、スムーズに刷っていただけます。性能や使い勝手は期待通りでした」

広色域も、インプレミアIS29の特長だ。茂木氏はオフセットとのマッチングに対して「オフセットでは、生産性の面でなかなか受けられなかった特色のものも、インプレミアIS29の域内で再現できることがあります。この機械ならではの、広色域の印刷商品のアイデアも出てきています。また、KOMORIのCMSソフト『Kカラーシミュレーター2』を使用して色を合わせています。色が本場に少なく、全体的な色の合わせ込みはうまくいっています」と評価。さらにオフセットとの比較において「単純な回転速度の面ではオフセットにはかなわないが、小ロットを何台も続けて実行する場合、高い見当精度や準備時間の短さが際立ち、オフセットの生産性を上回ることもあります」と高く評価した。

また、インプレミアIS29は、多能

工化でも効果を発揮し、現在、担当者4人のうち、2人が新入社員で1人が若手だが「それで品質が落ちることはない」と、スキルレスな面でも効果を生んでいると話す。

**オフセットの工場も  
効率的に稼働できるように**

今回、インプレミアIS29の導入で、PODを含めたデジタル面での売り上げが向上しただけでなく、オフセット工場の効率化を促進するなど、全社的な生産向上にも効果が出ているという。

さらに同社では、生産性を高める目的で、KOMORIのアプリアCTX115（プログラム油圧クランプ大型断裁システム）を導入した。「インプレミアIS29で多面付けが増えていくと、次に断裁工程に負荷が出ます。JDFを運用して面付けのデータをアプリアCTX115に取り込んで、自動的に指示を機械にさせることで、多能工化したオペレーターがミスなく断裁仕上げをできると考えました」と茂木氏。

現在のインプレミアIS29の稼働時間は1日8時間弱。今後24時間のフル稼働を考えており、2台目の導入も検討している。小田原社長は、「いろいろなことを始めるといふよりは、今ある業務内容の効率をいかにアップさせるか。そして当社の『売り』を作って、営業利益をいかに高めるかを、突き詰めていくことを考えています。それを実現できる機械が、インプレミアIS29です」と、大きな期待を寄せている。

した反転機構によって、両面が一発で刷れるというのが一番の決め手です」

インプレミアIS29は、現在、どのように経営や工程にマッチしているのか。「インプレミアIS29は、紙種、紙厚など大きく変わらなければ、異なるジョブを連続して投入することができ、準備、切り替え時間をさらに短縮できます」

また、「人手の確保」という面でも、インプレミアIS29は大きく貢献している」と、小田原社長はいう。

「印刷機にしても、後加工機にしても、通常は1台マシンを増やすとき、人手も増やすことを考える必要がある。ところ

1987年創業のプリントネット株式会社は、インターネットを大々的に活用した印刷事業で急成長を遂げている。ここ数年、大規模な投資と変革を行っており、積極的に印刷機の増設やM&Aを実施、2018年10月にはJASDAQに上場した。2019年は、24億5千万円の資金を投じ、工場の建て替え・移転、新拠点の設置、印刷機の増設などを行い、インプレミアIS29（29インチ枚葉インクジェットデジタルプリンティングシステム）を導入した。その導入の背景と効果について、小田原洋一社長、製造部の茂木陽介氏と小西紘奈氏にお聞きした。

「印刷機にしても、後加工機にしても、通常は1台マシンを増やすとき、人手も増やすことを考える必要がある。ところ

「印刷機にしても、後加工機にしても、通常は1台マシンを増やすとき、人手も増やすことを考える必要がある。ところ

「印刷機にしても、後加工機にしても、通常は1台マシンを増やすとき、人手も増やすことを考える必要がある。ところ



左：導入の結果、「限られた人数で、インプレミアIS29、アプリアCTX115、梱包作業のローテーションが組め、多能工化が進んでいます」と、茂木センター長補佐。

下：KOMORIの断裁システム、アプリアCTX115を操作する小西氏。



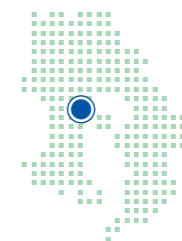
代表取締役社長  
小田原 洋一氏  
「インプレミアIS29の仕上がりは、顧客にも満足いただいています」

# プリントネット株式会社

## ラインアップにインプレミアIS29を追加。 効率的な運用と人材の有効活用で生産性を向上。

1987年創業のプリントネット株式会社は、インターネットを大々的に活用した印刷事業で急成長を遂げている。ここ数年、大規模な投資と変革を行っており、積極的に印刷機の増設やM&Aを実施、2018年10月にはJASDAQに上場した。2019年は、24億5千万円の資金を投じ、工場の建て替え・移転、新拠点の設置、印刷機の増設などを行い、インプレミアIS29（29インチ枚葉インクジェットデジタルプリンティングシステム）を導入した。その導入の背景と効果について、小田原洋一社長、製造部の茂木陽介氏と小西紘奈氏にお聞きした。

KAGOSHIMA



本社 / 鹿児島県鹿児島市城南町10-7  
https://printnet.jp/  
TEL / 050-3734-6495



東京デジタルセンター